

## モズク浮き流し養殖試験

中 村 勇 次

### 1. 目的

現在、モズク養殖は、気象の影響で豊作・不作を繰り返しており、これがモズク単価の高騰・暴落を引き起こす原因となっている。今期は、モズクブームによるモズク在庫不足のためモズク単価は上昇したが、芽切れや生育不良でモズク生産量が伸び悩んでいる。今後、モズク養殖を安定した漁業としていくため、事前調査として久米島において養殖試験を実施した所、1網あたりのモズク収量が比較的增加した。また、その年は不作傾向の年であったため、浮き流し養殖は生育不良対策として有効であると示唆された。平成13年度・14年度は、雑藻対策やモズクの芽切れ・生育不良等が重なり、浮き流し試験への網の移行ができなかったり、きちんとしたデータ収集ができなかった。今年度は、前年度の反省を元に石川市と久米島の両地区にてモズクの浮き流し養殖試験を行うとともに、モズク養殖業振興協議会（以降「モズク協議会」とする）で行っているノリ摘み機を使用したモズク収穫試験も併せて行い、その効果を検証する。

### 2. 方法

モズク浮き流し養殖試験は、石川市漁協伊波モズク養殖グループと久米島漁協渡名喜モズク養殖グループに協力を依頼した。久米島においては、現場実践型事業で全浮動式浮き流し養殖施設（40枚×2セット）を使用して養殖試験を実施した。また、石川市・久米島の両地区ともに、モズク協議会で行っているノリ摘み機を使用したモズク収穫試験を併せて実施した。

### 3. 結果

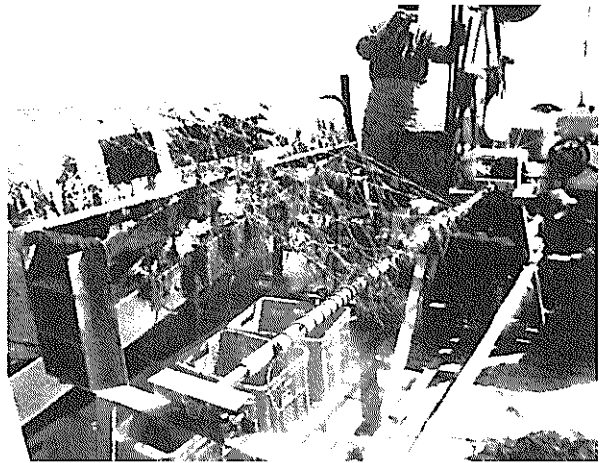
石川市では、前期同様オキナワモズク種苗を配布し、拡大培養した種苗と母藻によって種付けを行い、沖出しして半浮動式浮き流し養殖試験を行った。今期も芽切れがあったようだが、モズクが比較的成長している網を使ってノリ摘み機を使用したモズク収穫試験を行った。

久米島においては、今期の試験を行うに当たって事前に全浮動式浮き流し養殖について打ち合わせを行って養殖施設の構造を決定し、橋本産業株式会社を通して発注した。久米島では、以前からオキナワモズクの母藻を使用して種付けを行っていたが、近年の漁場環境の悪化のためか、シート採苗によるオキナワモズク母藻が確保しにくくなっているとのことであったため、普及センターより種苗を配布、これを拡大培養して種付けを行い、養殖試験に使用した。モズク養殖網の沖出し後、本張りできるまで成長している網を使用して、4月に全浮動式浮き流し養殖へ移行した。併せてヒビ建て式によるモズク養殖を行い、結果を比較する予定である。全浮動式浮き流し養殖施設は、40枚を2セットで合計80枚のモズク養殖網を使用して行った。今後、モズク協議会で行っているノリ摘み機を使用したモズク収穫試験を全浮動式浮き流し施設でも行う予定である。

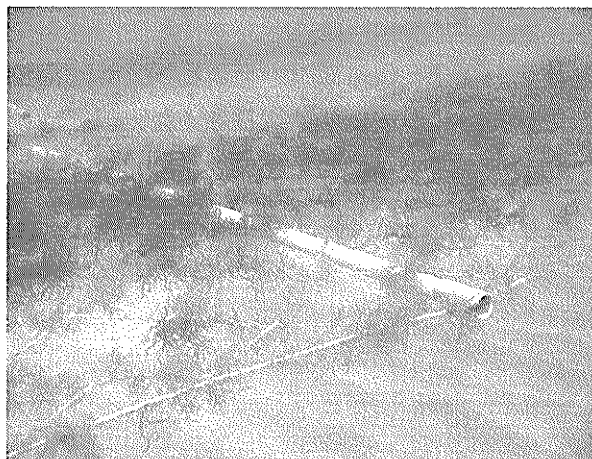
### 4. 考察

今期は、モズク養殖前期の水温が平年に比べて低かったためか、芽出しは良かったが、その後のモズク成長期に芽切れが各地で報告された。原因としては、モズク成長期に水温が平年より高かったことや日照不足だと推測された。そのため、石川市においては芽切れによりモズク養

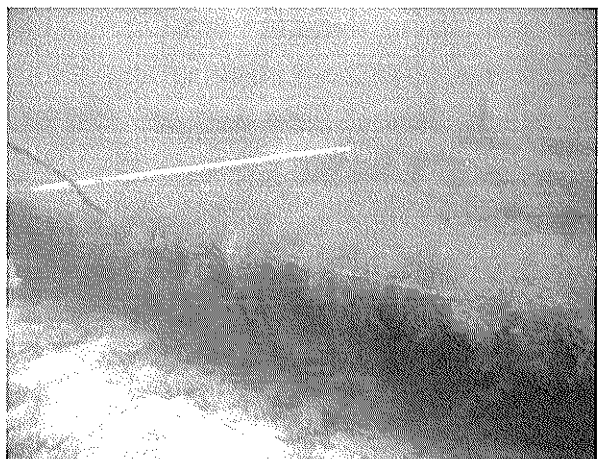
殖網の状態が悪かった。久米島においても、3月に全浮動式浮き流し養殖に移行する予定が、芽切れと生育不良のため4月にずれ込んだ。今後、これらの影響がどのように出てくるのが懸念される。全浮動式浮き流し養殖施設2基は、設置位置と構造が若干異なるため、今後の生育状況を観察しながら浮き流しに適した構造・水深などを検討することにした。今後、モズク協議会で行っているノリ摘み機を使用したモズク収穫試験も併せて行い、新たなモズク養殖手法を確立していきたい。



3. モズク収穫試験の様子。左奥に見えるのがノリ摘み機で、右手側がモズク網巻き取り機。



1. 石川市地先で実施している半浮動式浮き流し養殖のモズク網の様子。



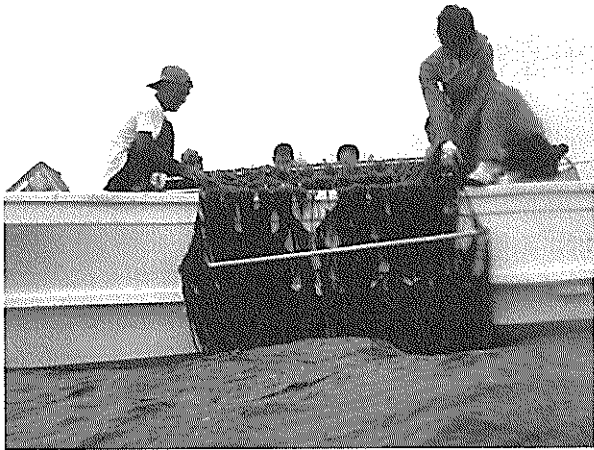
4. 久米島にて前年度に行ったノリ摘み機を使用したモズク収穫試験の様子。ヒビ建て式モズク養殖網に伸子棒を挟んでいる。



2. 石川市地先で行ったノリ摘み機を使用したモズク収穫試験の様子。収穫船までは、網を浮かせたまま引き寄せている。



5. 久米島での収穫試験の様子。伸子棒を挟んだモズク養殖網を収穫船まで引き寄せる。



6. 久米島での収穫試験の様子。モズク網巻き取り機が未だ付いていないため、人力で引き上げてノリ摘み機で収穫している。



7. 船上での収穫試験の様子。ノリ摘み機を使用した収穫での最適回転数は、毎分400回転であった。